令和　7　年度　　日光市立南原小学校　　令和　7　年　8　月　21　日

南原小学校だより

めざす学校像　　**地域の中の　みんなが安心して学び　幸せを創る学校**

夏の思い出

私が小学生の頃は、夏休みのよく晴れた日には、学校のプールに行っていました。男体山の方角にむくむくと大きくなっていく入道雲を覚えています。

その当時は、水筒を持ち歩く習慣はなく、のどが渇くと、学校や公園の水飲み場の水を飲んでいました。自動販売機も今ほどはなく、コンビニもありません。外で飲み物を手に入れるには今ほど容易なことではありませんでした。

私は、サッカーをやっていましたが、練習のときもすぐに水を飲めませんでした。飲むとお腹に水が溜まって、脇腹が痛くなる等、かえって運動しにくくなるということで、練習が終わるまで我慢していました。また、スポーツドリンクは粉を溶かして飲むタイプが出始めた頃でした。水分を補給することを推奨するような時代ではなかったのです。しかし、私が子どもの頃は今ほど暑くなく、35℃を超える日は、あまりなかったように思います。日光市は、暑い日でも30℃を超えるかどうかの気温だったと思います。夏休み中も35℃を超える猛暑日が続き、体温にせまる気温の日がありました。ちなみに、気温が25℃以上の日を夏日、30℃上の日を真夏日、35℃以上の日を猛暑日、40℃以上の日を酷暑日と言うそうです。夏休みの苦い思い出にならないように、猛暑日や酷暑日は十分気をつけて残りの夏休みをお過ごしください。

本物の合意形成ができる子どもたちとは・・・

特別活動の基本は話し合い活動です。それは意思決定と合意形成を鍛えながら、ただの一人も取り残さない納得解をつくる活動です。合意形成の方法に絶対的な正解はありません。ただ、不正解はあります。強く言ったり、立場を利用したりして決めるのは合意形成ではありません。お互いの意見をぶつけ合って、徹底的に話し合うという方法もありますが、時間をかけて、自分の意見がいかによいかをぶつけ合っても合意形成はできません。合意形成は論破するものではないのです。

かつて6年生で「卒業前の最後のクラス集会をしよう」という話し合いを見ました。提案理由は「卒業の前に、男女関係なくみんなで遊んで、いい思い出を残したいから」というものです。キーワードは「男女関係なく」と「思い出を残す」です。

まず何をするか決めるときに、一人の男の子が「サッカー」と言い、見ている私は「おいおい、女子も楽しめるかあ？」と思っていました。すると、一人の女子が「私もサッカーがいいと思います」と発言したのです。その場で何人もの子どもたちから「ええ！」という声があがりました。

その女子が言うには「今まで何度もクラス遊びをしたけれど、サッカーはいつも却下されていたので、最後くらいはサッカーをさせてあげたい」というものでした。「させてあげたい」という言い方に思わず笑ってしまいましたが。その意見にはほかの子も納得して、なんとサッカーに決まったのです。

とはいえ、やはりサッカーは苦手という子がたくさんいます。男女関係なく、いい思い出にするための工夫として「ボールを柔らかく」「女子のゴールは10点」「男子は利き足で蹴らない」なども出ましたが、決まったのは「当日まで毎日、男子が女子にサッカー教室をしてあげる」というものでした。これにはしびれました。

それから毎日放課後に男子が優しく女子にサッカーを教える姿が見られました。とても楽しそうで、当日を迎えなくても十分に「男女関係なく」「いい思い出を残す」が達成されていて、30年後のクラス会できっとサッカー教室は話題にあがるだろうなと思いました。

合意形成の技術のなかでは、目的の共有が一番大切です。でも、それ以上に話し合う仲間と素敵なゴールをつくろうという思いがあれば、技術を超えていくことができるのです。

教育技術８月号　八王子学園なかよし幼稚園長／元東京都公立小学校長　清水弘美　より

「暑中見舞い」と「残暑見舞い」の慣習について

暑中見舞の起源

暑中見舞の習慣は、江戸時代まで遡ります。当時、人々はお盆の時期に里帰りをし、先祖の霊にお供え物を届ける習慣がありました。この行為は、普段お世話になっている人々にも贈り物を渡す「感謝の夏便り」としての意味合いも含まれていました。

変化の過程

明治時代に入ると、郵便制度の整備に伴い、暑中見舞いは贈り物から挨拶状へと形を変えていきました。季節の挨拶をはがきで伝える文化が急速に普及し、親しい人や遠方の知人に対して健康を気遣う手紙を送る風習として定着しました。1950年には、郵政省が「暑中見舞用郵便はがき」を初めて販売し、6月15日が「暑中見舞いの日」とされています。

残暑見舞の歴史

残暑見舞は、もともと江戸時代に始まった「盆礼」という習慣に由来しています。この習慣では、お盆の時期に祖先の霊にお供え物を持参し、親戚や近所の人々に挨拶をすることが一般的でした。この贈答の習慣が次第に間簡略化され、手紙やはがきでの挨拶に変わっていきました。

残暑見舞の目的

残暑見舞は、立秋を過ぎてもなお続く暑さに対する気遣いを表すために送られます。具体的には、立秋（8月7日頃）から8月末までの間に送ることが一般的です。この時期は、夏の疲れが出やすい時期でもあるため、相手の健康を気遣うメッセージを添えることが重要です。

サマースクールが開催されました！

7月29日（火）

多くのボランティアのみなさんのお陰で開催することができました。参観者の保護者の皆様や本校卒業生のボランティアさんにもお世話になりました。34名の児童が参加し、夏休みの宿題、お習字、木の実のクラフト、ランタンづくり、暗くなってからは花火を行いました。地域づくり、夏休みのよい思い出となりました。サマースクール実行委員会の皆様、ご協力頂いたボランティアの皆様、大変お世話になりありがとうございました。

保護者、地域のみなさまへ

学校にはその日困っている子がたくさんいます。すべての子どもの「サポーター」になっていただけませんか。自分の子どもの周りの環境が豊かになれば、子どもは主体的に育ちます。学校に多様な空気が充満すれば、子どもの事実は必然的に変わってきます。 ご都合がよいときに学校の様子を見に来ていただけませんか。 よろしくお願いいたします。

南原小HPからも
本校の教育活動や
児童の様子を
ご覧になれます

1．自　立
2．協　働
3．創　造